

マグロ・キーワード

OPRT (社)責任あるまぐろ漁業推進機構

<http://www.oprt.or.jp/>

2010.5 作成

1. OPRT

2000年12月 設立。まぐろ資源の乱獲防止・持続的利用を推進する国際団体。会員は生産者、貿易、流通、消費者等の団体。生産者団体は、日本、台湾、韓国、フィリピン、インドネシア、中国、エクアドル、セイシェル、フィジー、ミクロネシア、マレーシアの延縄漁業団体。

登録隻数1,069隻(世界の殆どの大型延縄漁船がOPRTに登録されている。)

2. マグロは高度回遊性魚種

海洋を広範囲に回遊して生息しているマグロは高度回遊性魚種。国連海洋法条約(UNCLOS)第64条は、各国に対し、高度回遊魚の保存と、最適利用を促進するため、国際機関を通じて協力することと定めています。

●クロマグロ(体長2.5m/体重300kg)

太平洋

日本南方～フィリピン沖で産卵し、日本近海、ベーリング海、メキシコ沖まで広く回遊。ホンマグロとも呼ぶ。

脂がのり、高品質の刺身として人気が高い。

大西洋

地中海、メキシコ湾で産卵し、北大西洋を広く回遊



●ミナミマグロ(体長1.7m/体重100kg)

ジャワ沖で産卵し、オーストラリア、ニュージーランドから南アフリカ沖まで広く回遊。別名インドマグロ。

脂がのり、クロマグロに次いで高品質な刺身として人気が高い。



●メバチ(体長2.0m/体重180kg)

各大洋の熱帯、温帯域に広く分布し回遊。

最も一般的な刺身用マグロとして利用されている。



●キハダ(体長1.8m/体重120kg)

各大洋の熱帯、温帯域に広く分布し回遊。

刺身用及び缶詰原料用に利用されている。



●ビンナガ(体長1.3m/体重25kg)

各大洋の熱帯、温帯域に広く分布し回遊。

一部刺身に利用されるが、ほとんどは缶詰用。



注)各魚種のサイズは、最大に近いものです。

3. 地域漁業管理機関

ICCAT

(大西洋マグロ類保存国際条約)
 1969年発効。[マドリッド(スペイン)]
 日本、米国、カナダ、韓国など45ヶ国及びECが加盟。クロマグロの漁獲量規制。キハダ、メバチなどの最小体重規制。

IATTC

(全米熱帯マグロ類条約)
 1950年発効。[ラホヤ(米国)]
 日本、米国、パナマ、ベネゼエラなど15ヶ国が加盟。規制区域におけるキハダの総漁獲量制限。



CCSBT

(ミナミマグロ保存条約)
 1994年発効。
 [キャンベラ(オーストラリア)]
 日本、豪州、NZ、韓国及び台湾(拡大委員会メンバー)が加盟。毎漁期のミナミマグロの総漁獲可能量、国別割当量を決定。

WCPFC

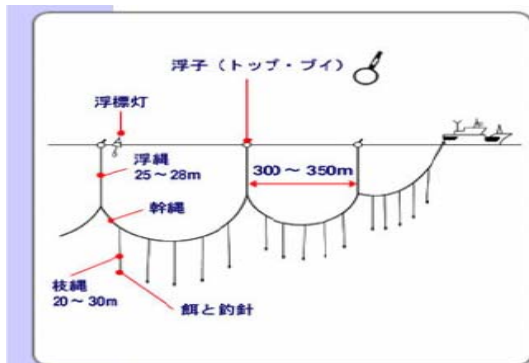
(中西部太平洋まぐろ類条約)
 2004年6月発効。
 [ポンペイ(ミクロネシア)]
 日本、豪州、NZ、ミクロネシア、PNGなどが加盟。
 世界のカツオマグロ漁業生産の約1/3(150万トン弱)を占める海域におけるマグロ類の保存・管理を行う。

IOTC

(インド洋マグロ類条約)
 1996年発効。
 [ヴィクトリア(セーシェル)]
 日本、インド、韓国、豪州など24ヶ国及びECが加盟。マグロ類の保存、合理的利用の促進を目的とする委員会を設置。

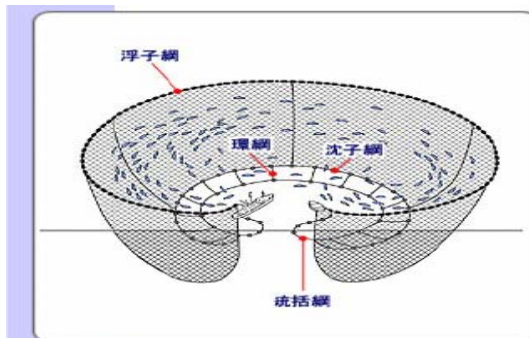
4. 漁法 (図: 大日本水産会)

●はえ縄 (延縄)



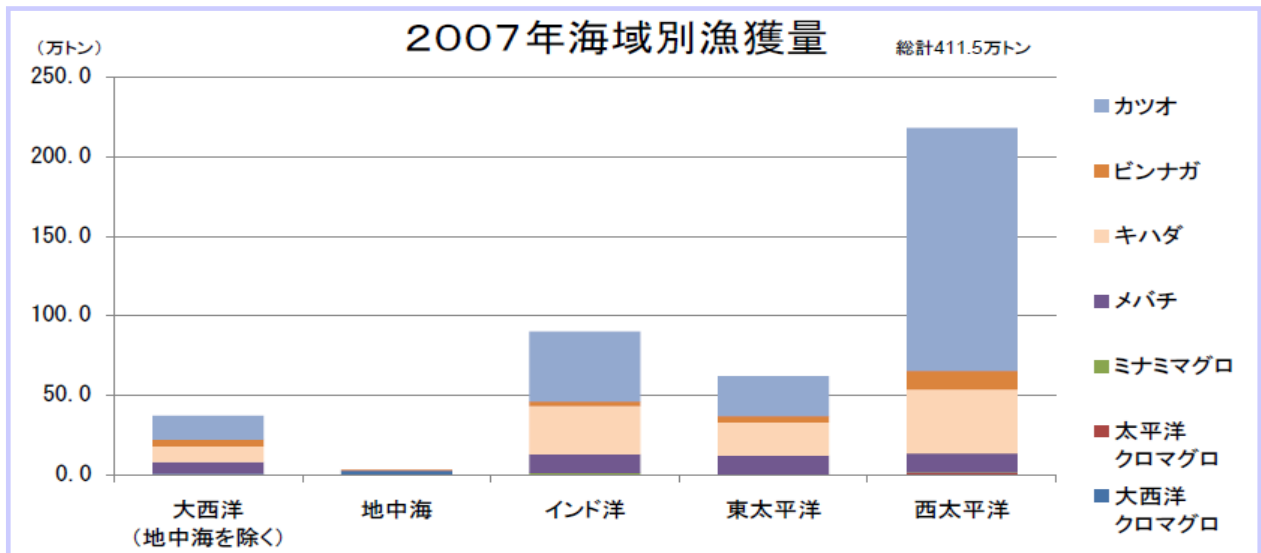
- 主にクロマグロ、ミナミマグロ、メバチ、キハダ、ビンナガを対象
- 日本、韓国、台湾、中国、インドネシア等 (刺身用)

●まき網 (巻網)



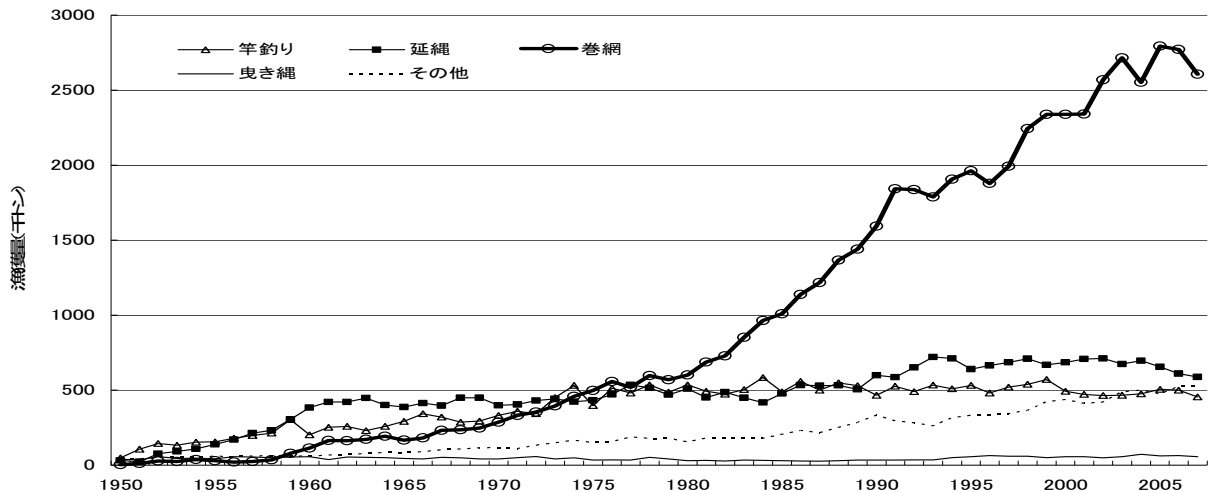
- 主にカツオ、キハダを対象
- 日本(鯉節、缶詰用)
- スペイン、メキシコ、米国等(缶詰用)
- スペイン、フランス等(蓄養にクロマグロを漁獲)
- FAD(人工集魚装置・浮き魚礁)
 (FADを設置し、そこに集まる群を効率的に漁獲する。小型のメバチ・キハダも大量に漁獲することから資源に与える影響が大きい。)

5. 海域別水揚げ量 (水産庁ホームページ 資料：FAO統計及びWCPFC資料)



	合計	ビンナガ	メバチ	キハダ	大西洋 クロマグロ	太平洋 クロマグロ	ミナミ マグロ	カツオ
大西洋(地中海除く)	37.4	4.3	7.3	9.7	0.9	-	0.0	15.1
地中海	3.3	0.7	-	-	2.6	-	-	0.0
インド洋	90.3	3.0	12.0	30.2	-	-	1.1	44.0
東太平洋	62.2	4.0	11.9	20.8	-	0.4	-	25.0
西太平洋	218.2	11.6	11.6	40.2	-	1.6	0.1	152.7
合計	411.5	23.6	43.3	101.0	3.5	2.0	1.2	236.8

6. 世界のマグロ類総生産量 (1950~2007)



注：(1) マグロ類には、クロマグロ、ミナミマグロ、メバチ、キハダ、ビンナガ、かつおを含む。
 (2) 出典：RFMOs、編集 三宅

7. 蓄養／養殖

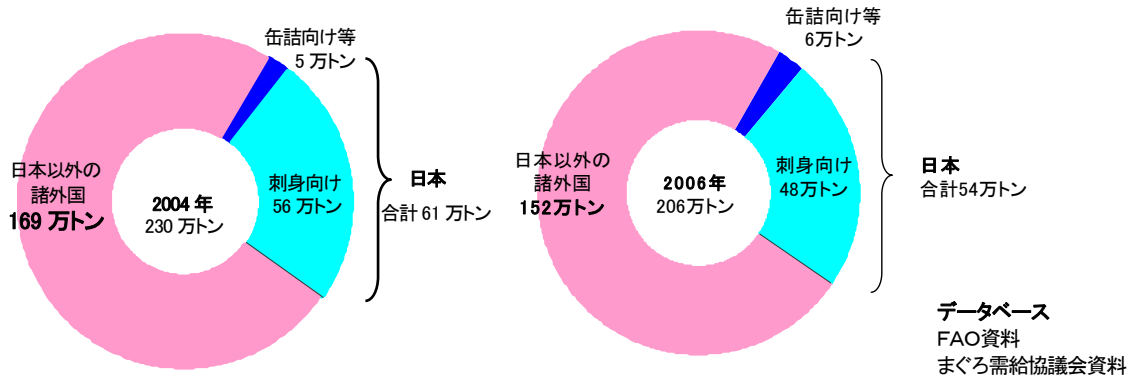
蓄養) 天然資源を採捕し、イケスに生け込み、給餌し肥育した後、出荷する。
 地中海、メキシコ、日本がクロマグロ蓄養の中心。豪州はミナミマグロを蓄養。
 蓄養マグロの大部分は日本が消費。

養殖) 孵化 → 生育 → 産卵 → 孵化の生活史を養殖施設内で実現する。
 天然資源を減らさずに生産供給できる方法として、日本で商業化の研究が進んでいる。

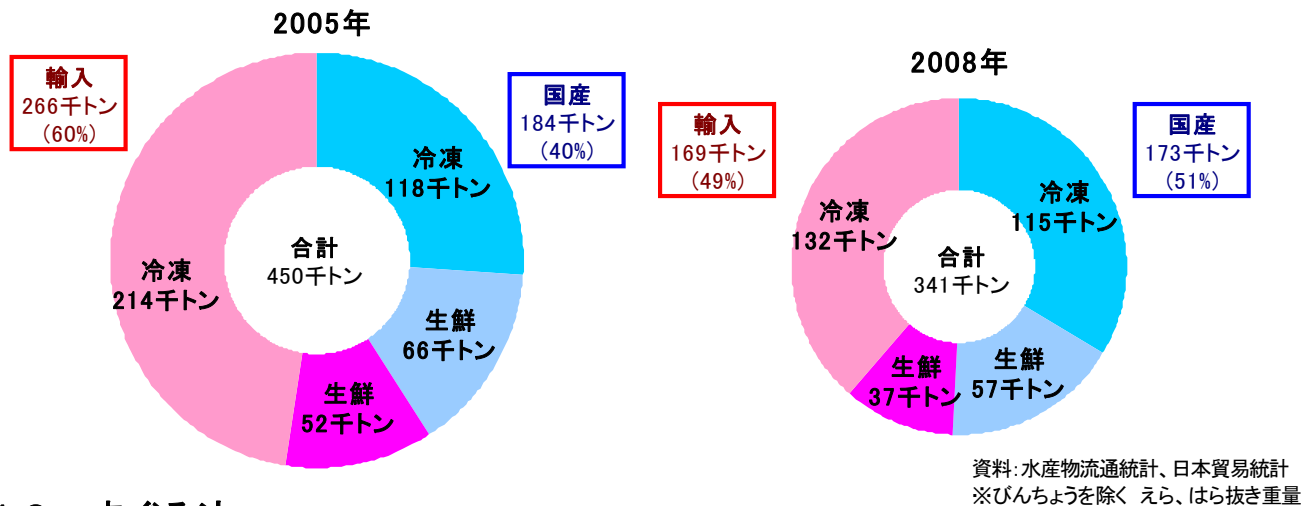
2008年世界の養殖クロマグロ・ミナミマグロ輸入・生産量

大西洋クロマグロ	地中海	18,194トン
太平洋クロマグロ	メキシコ	2,389トン
"	日本	4,950トン
ミナミマグロ	豪州	7,024トン
合計		32,557トン

8. 日本は世界最大の刺身マグロ消費国



9. 日本への刺身マグロ供給量



10. まぐろ法

(まぐろ資源の保存及び管理の強化に関する特別措置法の略 平成8年6月 公布)

骨子: 日本は、世界最大の刺身まぐろ消費国で、かつ有数のまぐろ漁業国。

資源動向、国際管理の進展など、環境の著しい変化に対し、まぐろ資源の保存・管理の強化を図り、まぐろ漁業の持続的発展とまぐろの安定供給に資することを目的。国際機関との協力、情報の収集、輸入制限措置などを規定。

11. IUU漁業

Illegal, Unreported and Unregulated Fishing (違法、無報告、無規制漁業) の略。

水産資源の持続的利用に向けた努力を無効とする漁業の総称。その抑止、廃絶のためにFAO・国連食料農業機関が国際行動計画を採択(2001年)。国際社会が協力して、IUU漁業廃絶の努力を進めている。

日本は、かつて、IUU漁船の獲ったまぐろの市場国として、批判されたが、現在は、輸入まぐろの監視体制を確立し、IUUまぐろの輸入を阻止している。